

情報サイトの作成・運営のための

クラウドファンディングご支援のお願い



困っているお子さんやご家族が孤立してしまう・・・
がんばって活動しているのに知ってもらえていない・・・
学校に相談しても居場所の情報があまりもらえない・・・

「不登校のお子さんのいるご家庭と議員とで話す会」で見えてきた
「支援情報の不足」→ 情報サイトで解決したい！

不登校の子ども・保護者のための
居場所支援活動の情報サイトを作りたい

目標金額：50万円

募集期間：10月24日(金)～12月22日(月)

支援金額：3,000円～



ご支援はコチラからお願いします！

今回掲載している「レディ・フォー」は社会貢献性の高いプロジェクトが多く挑戦しているクラウドファンディングのプラットフォームです。

https://readyfor.jp/projects/okaeri_chita

おうちで
「おかえり」と
言える
未来に向けて

◆ご支援いただいた資金の活用方法

サイト立ち上げ
にかかる費用

居場所活動等の取材
にかかる費用

サイトを運営する費用

◆寄付の例

＜応援5000＞支援金額5,000円

お礼のメールをお送りします。

返礼品がないため、全額をプロジェクトに充てられます。

＜応援7000＞支援金額7,000円

お礼のメールをお送りします。

返礼品：アクリルキーホルダー1個・トートバッグ1枚

返礼品の有・無など13種類からお選びください。



※イメージです

お問い合わせ先

おかえり知多（担当：高橋）

メール：okaeri.chita@gmail.com 電話：080-5123-4746

おかえり知多



”不登校”が問題にならない社会へ

「話す会」から 団体「おかえり知多」へ

きっかけは、市議が小学3年生の親子から相談を受け、令和6年1月に「不登校のお子さんのいる家庭と議員の話す会」(以下「話す会」)を開いたこと。その後もつながり続けたい思いから、当事者保護者と市議の一部で「おかえり知多」を立ち上げました。

「不登校」という言葉の周りには、さまざまな想いを抱える人がいます。助けを求める人も、サポートしたい人も、それぞれの想いに寄り添えるような活動を目指しています。



「不登校」という言葉は わかりやすいけれど…

わかりやすさがある一方で、その語感から当事者にとっては否定や責められているような印象を受けることも。不登校かそうでないかというだけでなくその背景にはグラデーションのように様々な状況があると考えています。サイトでは極力「不登校」を使用せず、読んだときに共感してもらえる言葉を工夫します。

不登校

登校

第三の居場所	遅刻・早退 行きしぶり
学校でいつらさを感じている	行きたくないけど登校
毎日すごく疲れる	特定のことがらに拒否感がある

行きたい

行きたくない

「話す会」から見えてきたこと



まずは、情報サイトの必要性

「話す会」で浮かび上がったことの中に「支援情報の不足」がありました。困っている子どもがいる。やさしく迎えてくれる居場所がある。でもお互いにつながらないまま、当事者は孤立してしまい、居場所は認知されずにいることがあります。

そこで私たちは取り組めることのひとつとして、みんなが見られる支援・居場所の情報サイトを作って、当事者家庭と支援・居場所活動をつなぎたい！と動き出しました。

作りたいサイトの姿

活動内容やスタッフ、雰囲気など具体的な情報が知りたいとの「話す会」での声を取り入れ、より安心して一步を踏み出せるように、実際に活動場所にてインタビューをした情報を載せていきます。

情報サイトの紹介チラシを、学校に持ってもらおうよう依頼します。これにより行政や学校も、必要に応じて民間団体の取り組みとして児童生徒や家庭に届けられるようになります。

エリアは知多半島内を目標に、子ども居場所だけでなく保護者の会なども含めます。更新は年1回、写真を載せて一定の様式にそろえることで、見やすい選びやすいサイトを目指します。

サイトを通して支援者同士のつながりが生まれたり、掲載情報をもとに「おかえり知多」がコーディネーターとして伴走する役割ができたりすることも期待しています。

「おかえり」に込めた想い

学校へ行きたくなくなって、おうちでずっと過ごしている。保護者の方と一緒に少しずつ外出ができるようになってきた。休む時間も大切、甘える時間も大事。でもしばらくしたら、一人でもお出かけして外の世界でがんばって、無事に帰ってこられるように。おうちで待っていて安心して「おかえり」が言ってあげられるように。そんな将来への願いをこの「おかえり」という言葉に込めています。

ここで出会う人や場所が、少しでも安心や勇気の支えになり、外の世界へ一歩を踏み出す力になりますように。



ロゴ作者のメッセージ

私自身も不登校を経験し、人生が止まったように思った時期がありましたが、周りの人に支えられ「続いていく」と気づけました。迎えてくれる人、悩みを支えてくれる人がいるから前に進める。その想いを込め、手を取り合う生きものを描いたマークをデザインしました。(作者：篠原美結より)

